

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 芸術 科目 工芸 I

教科： 芸術 科目： 工芸 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

使用教科書： （ 日本文教出版 工芸 I ）

教科 芸術 の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 工芸 I の目標： 工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 鑑賞		評価規準	知	思	態	配 時 数	
			身	社						
前期	<工芸について> ・生活や社会の状況等により形成されてきた日本の工芸の伝統について考え、日本の工芸の特質や美意識、自然観などを感じ取り、想像力を働かせ、見方や感じ方を深める。 ・主体的に、工芸作品や作風、作家の個性、価値観などから、日本の工芸の特質や美意識、自然観などを感じ取る。 形や色彩、素材などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基にイメージや作風などで捉えることを理解する。	・工芸 I で学習する内容についての説明 ・工芸で使用する道具の紹介 ・美術と工芸の違いについて ・様々な工芸作品の作品及び技法の紹介  ・指導事項 A (表現) ア・イ B (鑑賞) ア・イ 共通ア・イ	○	○	・1年間の授業予定について意欲的に聞き、把握することができる。 ・想像力を働かせ工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深める創造活動に取り組みようとする。 ・工芸のそれぞれの分野の違いを理解し、その違いについて知ろうとしている。	○			4	
	<染色技法を用いた飾り布制作> ・道具を正しく使用し、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味して創造的に表す。 ・求めている条件に応じて、伝統的な表現の良さや、機能と美しさの調和を考え、染色作品に対する見方や感じ方を深めたりできる。 ・主体的に、使う人の願いや場などから発想する、染色品の良さや美しさを感じ取ることができる。	・代表的な染色作品の紹介および鑑賞 ・染色の特性について学ぶ ・染色用具の使用法 ・染め方の基本 ・染色による造形の追求 ・仕上げ方法の説明 ・鑑賞  ・指導事項 Aア・イ Bイ (ア) 共通ア・イ	○	○	○	・主体的に作品制作の過程に取り組み、使いやすくなおかつ染色の良さを生かした染色表現の創造活動に取り組みようとしている。 ・使う人の願いや心情等を鑑みながら、使用する上での使い勝手の良さやデザイン性を考え、制作の構想を練っている。 ・染色品が持つ質感や美しさを感じながら制作している。 ・道具を正しく使用している。	○	○	○	16
後期	<編組技法を用いた藤かごの制作> ・編組工芸の制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味して創造的に表す。 ・藤という素材を通して、身近な生活の視点に立って発想し、用途と美しさの調和を考えながら制作する。 ・作者の願いや制作過程における工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞に取り組みようとする。	・代表的な編組作品の紹介 ・様々な編組技法の紹介 ・編組工芸の制作過程を学ぶ ・藤の扱い方を知る ・用具の使用法を学ぶ  ・指導事項 Aイ (ア) (イ) Bイ (ア) 共通ア・イ	○	○	○	・編組工芸の制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすとともに、手順や技法を吟味し、創造的に表している。 ・主体的に、身近な生活の視点に立って自然や素材、自己の思いなどから生活を心豊かに演出する藤かごの表現の創造活動に取り組みようとしている。 ・他者と協力し、制作活動を行っている。	○	○	○	25
	<鍛金> ・意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味して創造的に表す。 ・使う人の生活環境などから食事を心豊かに演出する器を社会的な視点に立って発想し、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ・主体的に、器を使用する場などを基にした、より良い表現方法を制作過程にて工夫する。	・代表的な金工作品の紹介および鑑賞 ・鍛金の用具の使用法を学ぶ ・鍛金の実践 ・仕上げ  ・指導事項 A (1) ア (イ) (2) ア (イ) イ (ア) (イ) 共通事項ア・イ	○	○	○	・鍛金の制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすとともに、手順や技法を吟味し、創造的に表している。 ・機能と美しさの調和を考え、構想し、実践している。 ・主体的に金属工芸の良さを感じ取り、学習活動に取り組みている。 ・用具を正しく使用している。	○	○	○	25
									合計	
									70	